

市立甲府病院
医療安全体制等検証委員会
委員長 殿

平成 24 年 10 月 24 日
山梨大学医学部附属病院 薬剤部
寺松 剛
手塚 春樹

市立甲府病院薬剤関係業務に関する安全体制の検証結果報告書

検証方法

チェックシートによる事前調査、訪問によるヒアリング、現場視察

視察・評価者

寺松剛、手塚春樹（山梨大学医学部附属病院 薬剤部）

調査日

事前調査：平成 24 年 9 月 14 日

訪問調査：平成 24 年 10 月 4 日

調査結果

総評

薬剤関連業務に関する安全体制については、概ね良好と評価します。
手術室の医薬品倉庫の空調については、室温を逸脱しており早期に改善が必要と評価します。

事前評価シート及び、ヒアリング・視察による個別の評価

医薬品の安全使用のための業務手順書について

医薬品安全使用のための業務手順書は概ね妥当と評価します。しかし、従業者の業務が「医薬品業務手順書」に基づき行われているか定期的に確認し、記録することが求められておりますが、関係職員全体に対して業務点検が行われていない状況であり、改善が必要と評価します。

インシデント・ヒヤリハットへの対応について

薬剤関連のインシデント・ヒヤリハット事例等については、薬剤部と安全管理室が連携し、情報の共有が行われていました。また、薬剤師全員に対して事例の周知が図られており適切な体制であると評価します。

医薬品オーダリングについて

オーダリングシステムには、医薬品の過剰投与を防止する機能として薬剤最大投与マスタを有していますが、マスタメンテナンスを行う人員が確保されておらず、利用不可能な状況でした。オーダ入力に関し、誤った過剰投与を防止する観点から、システム的なサポートの必要性について、人員配置やデータ購入などの方策も含め、今後検討が必要と評価します。

処方せん、注射指示せんについて

処方せん、注射指示せんに、体重・アレルギー薬等の情報を表示する等により、薬剤師の処方鑑査もより正確で医療安全に寄与できると考えられ、システムの改善が望ましいと評価します。

注射薬ラベル、病棟の注射指示簿には、可能な限り点滴開始時刻、終了時刻、投与速度等の記載が望まれます。

薬剤部投薬窓口について

複数診療科から薬剤が処方された場合の投薬漏れチェックは、窓口業務担当者の記憶を頼りに行っている状況でした。他の薬剤師が対応する場合など、投薬手順の整備が必要と考えます。

夜間の薬の払出状況について

夜間の薬の払出状況については、病棟常備薬を使用し、薬剤師の鑑査を得ていない状況でした。救急輪番日以外の夜勤・当直、日直などの体制については、対応可能な人員の確保を含め、今後の検討が必要と評価します

病棟常備薬の払出状況について

病棟常備注射薬から医薬品を使用した場合の補充方法について、オーダが行われているにもかかわらず、実在庫数のチェックのみで在庫数を補充しており、オーダ（注射指示）との照合が行われていない状況でした。オーダデータと常備薬請求数の照合を行う等、今後の検討が必要と評価します。

抗がん剤調製について

抗がん剤調製に関し、循環型の安全キャビネット（クラスIIA）を設置し、抗がん剤調製を行っていますが、抗がん剤無菌調製ガイドラインでは、抗がん剤のダスト・ミストによる被爆を防御する観点から、外排気型（クラスIIB）が推奨されています。調製に従事するスタッフに対する抗がん剤被爆を防ぐために外排気型の安全キャビネットの設置が望まれます。

院内製剤について

院内製剤を使用した患者のフォローアップが全くなされていない状況でした。特殊製剤については、使用結果報告書等を用い、特殊製剤の使用に関する安全性、有効性データを蓄積していくことが望ましいと考えます。

医薬品の保管について

病棟、薬剤部における医薬品の保管状況（温度・湿度）は適切に行われており、有効期限の確認も適切に行われていると評価します。

手術室の医薬品保管庫は、温度・湿度管理は1日2回行われていましたが、温度はほとんど32℃程度を記録しており、日本薬局方が定める室温保存の条件から逸脱していました。現在の空調を稼働させても改善されないとの事ですので、早急に独立空調の設置等、対応が必要と考えます。